

別紙 1 - 2 (様式第 1 号・様式第 5 号添付用)

提案型協働事業計画書 (活動支援交付金)

団 体 名	バリアフリーコラボレーション実行委員会		
	設立年月日	平成 24 年 6 月 23 日	団体の構成人数 11 人
1 事業の名称及び実施期間	名称：バリアフリーコラボレーション 期間： 29 年 4 月 1 日から 30 年 3 月 31 日		
2 該当する町の施策方針	基本目標 3 ふれあいのあるまち 2 誰もが気軽に学習や趣味の活動に参加できるまち ③ 文化・芸術・科学に触れる機会を充実する。 基本目標 5 いきいきと暮らせるまち 2 高齢者や障害者がいきいきと暮らしているまち ③ 障害者の自立を応援する 3 みんながお互いを理解しやさしい心を持っているまち ① 地域ぐるみで福祉を支える		
3 解決へ向けて取り組む地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・知らないことから生まれる差別をなくす 平成 28 年 4 月から、障害者差別解消法が施行されました。「差別をしてはいけない」それは、すべての人の共通認識です。しかし、現実には「差別と感じられること」が起きています。それらは、どのようなことが差別にあたり、どう関わるといいのかわからないことから生じています。これらを改善するためにも、障がいのある方とない方が出会う場をつくり、知り合い理解を深めることで、差別をなくすことが重要です。		
4 協働対象部署	生涯学習課、福祉課		
5 事業の内容等 (1) 事業内容と方法 (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に) (4) 事業 P R の方法 (5) その他	1. ゆめプラコンサート (1) 障がいのある方と障がいのない人の交流の場 ・障がいのある方が輝ける場 (スポットを浴びられる場) をつくる。 ・障がいのある方とプロミュージシャンとの共演 ・聴覚に障がいのある方、視覚に障がいのある方、発達障がい・知的障がいのある方も一緒に楽しめる工夫をする。 (2) ゆめたろうプラザ 輝きホール (3) 障がいのある方の出演者の公募 5 組、支援してくれるミュージシャン 5 人、運営ボランティア 50 人、来場者 500 人 (4) チラシの配布 (町内の小中学校、各種団体、企業など) 町の広報誌、ケーブルテレビ、新聞掲載 特別支援学校、特別支援学級への案内 (5) 事業実施のため、企業の資金協力を求める 2. アウトリーチ (1) 障がいのある方と障がいのない人の交流の場 運営には、運営会場の職員の協力をお願いする。(共に運営		

	<p>することで理解が広がる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方とプロミュージシャンとの共演 (2) 役場の中庭、協賛企業または学校などを検討 (3) 障害のある方と支援してくれるミュージシャン(1～2か所) (4) 企業の協賛金の依頼とともに、アウトリーチ先を見つける (5) 事業実施のため、企業の資金協力を求める <p>3. 障がい者支援施設と協働して、障がい者支援への理解を広げるために各施設の事業PRを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ゆめプラコンサートやアウトリーチを実施する中で、各障害者支援を行っている事業所と協力して授産品の販売とPRを一緒に行う。 (2) ゆめプラコンサートおよび、アウトリーチの会場 (3) 障がい者支援活動を行っている事業所(3～5事業所) (4) イベント開催案内チラシに掲載する。
<p>6 事業実施により期待される効果</p>	<p><u>障がい者の生きる意欲を高める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす障がいのある方が輝ける場、ステージに立つことでの感動を味わい、新たなチャレンジへとつながる。 <p><u>障がい者に対する理解を広げる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで福祉に関心のなかった方も、音楽を通じて障がいのある方とつながることができる。 ・障がいの有無にかかわらず、音楽を通じて、みんなが一緒に楽しむ時間と環境をつくることで「知らない」というバリアをなくし、障がいに対する理解を生み、差別や偏見をなくすことができる。 ・障がいのある方と出会う機会を得た子どもたちは、将来、障がいのある方々のよき理解者となる。 ・「バリアフリー」をテーマに、音楽で障がいのある方とミュージシャンが共にコラボする姿を通じて、ステージを支える裏方スタッフ、来場者すべてが、障がいのある方に対する理解者となる。 ・町の広報誌、ケーブルテレビ、新聞社などを活用し、イベントの紹介をすることで、障がいのある方に対する理解の啓発をする。 <p><u>つながりを継続していく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この企画は1回限りで終わるものではなく、毎年実施することで、障がいのある方への理解が深まり、ミュージシャンや地域、地域のボランティアの輪が確実に広がっていく。
<p>7 事業の特徴</p>	<p>ふだん、嬉しくなると、とび跳ねたり、大きな声を発する障がいのある方は、コンサートに行くことができない。聴覚に障がいのある方が楽しめるコンサートは限られている。</p> <p>そうした困難のある方が参加しやすい企画を、障がいのある方と健常者と一緒につくりあげること、障がいへの理解を広げ、共生社会の実現につなげる。</p> <p>障がいのある方が一緒に楽しめるよう、音楽に光や振動を連動させる。手話通訳、要約筆記などのコミュニケーション支援も導入するなどの工夫をする。</p> <p>障がいを持ちながらも様々な可能性を求め、努力して演奏活動している姿を、地域の中で積極的に紹介することで、相互理解を進める交流の場をつくる。</p>
<p>8 今後の事業ビジョン</p>	<p>武豊町の共生社会の実現のため、障害者差別解消法の啓発活動の一つとして位置付けたい。</p> <p>恒例の啓発活動とすることで、中学生・高校生・大学生などのボ</p>

	<p>ランティア協力体制を構築する。</p> <p>日常的な福祉的支援の枠とは別に、文化・芸術の方面の方々（ミュージシャン、パフォーマーなど）の協力を得て、広がりのあるイベントとしていく。</p> <p>持続可能な事業とするため、行政との協働により会場費等の減免を継続するとともに、企業からの資金協力を求めていく。</p>
<p>9 他の交付金等への申請状況 （交付金名・予算額） ※なければ「なし」と記載</p>	<p>企業へ協賛金の協力を求める。</p>
<p>10 その他</p>	

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。